

海の遊戯

福田 静 子

或日の遊戯の時間はこの頃最も關心をもたれる海を主題として、海に關聯ある「波」「舟」「島」の遊戯によつて、全身運動をすることにいたしました。

波

立つたまゝ、或は坐つていろ／＼な波の運動をいたしませう。

「小さな波」

○兩手を前に出し、(上體を共に搖り動かしながら)少し高低をつけて左右に動かす。

○兩手を横に擴げ、軽く上下に振動させながら體前にもつてきてそろへ、又動かしながら横に開く。

「大きな波」

○太平洋の山の様に大きな波は、兩手を揃へて一方の横から頭上にあげ、踵をあげて、兩手を出来るだけ高くして、反對側の横にぞすんと下す。

○兩手を横に下し、「一」、「二」で踵をあげ上體を後にそらして兩手を後傾にあげ、「三」で上體を前屈すると共に、兩手をかぶさる様に前下に下す。

この波の運動は、海に關聯した曲に合はせて、一同圓くなつたり、横に並んだり、又は自由に散つた隊形で、先生と一緒にいた

しますが、先生の動作をよく見てゐて、先生が小さな波の時は、みんなは大きな波に、又先生が大きな波になる時は、一同小さな波の眞似をするといふやうに、先生と子供達とは反對の動作をすることも面白いと思ひます。

波くゞり

みんなで圓形を作り、連手して波の様に前後に振ります。

誰か最初の人をきめ、その人から一人づゝ順々に、圓くなつてゐる人々の間を縫ひながら前後にゆれてゐる波の下をくゞり抜けて圓を一廻りします。

元の位置にもどつたら次の人が同様にしてくゞります。波をくゞる時は、體を前屈して小さくなり、立つてゐる人にぶつからない様に上手にくゞりませう。

漕舟ぎ

二人漕ぎ

上體を前屈すると共に掌を握つて兩手を前出し、上體をおこす時に兩手をぐつと體前にひきよせて舟を漕ぐ運動をいたします。坐つて漕ぐ場合には、腰を下して兩足を揃へて前出し、立つて漕ぐ時には、足を前後に開きます。横に漕いでゆく時には、上體を前屈すると共に、片方の足を横に開いて兩手を前し、上體を起す

と共に他方の足をひきよせて揃へ、両手を體前にひきながら、横にすゝみます。

「二人漕ぎ」

二人づゝ、向ひあつて腰を下し、兩足を前出して兩手をつなぎ、一方の人が體を後にひいて他方の人を自分の方にひきよせ、次は反對に向ふへ押しかへします。「一」、「二」、「三」、「四」の呼稱に合はせて、力いっぱい漕ぎませう。

この舟漕ぎ運動は、音楽に合はせながら自由に散つた隊形、一列縦隊の隊形、圓形等でしますが、一人の審判官を前に出し、「用意」「ドン」の合圖で、舟漕ぎ競争とし、うまく漕げる人を、選んで次の審判官にする等、いろ／＼に取扱ふことが出来ます。

潜水艦

いろ／＼な物真似あそびをした時、「今度は潜水艦になつてみませう」と申しましたら、とたんに一同、體を伏せたり屈めたりして低くなり、面白い恰好をして動き出しました。その中から一つを選んでみませう。それは、體をつゝと前屈し、片方の手を頭の前にもつてゆき、人指ゆびを潜望鏡として頭上に突きあげるのです。みんなもこれにならひ、整列して海の音楽にあはせながら、室を動き廻ります。途中で音楽が止まりましたら、頭上に突き出した潜望鏡をひっこめて、同時に體を小さくし、床の上に伏せて暫く動かない。又音楽が始つたら勇しく出動いたします。

又、或る潜水艦は床の上に仰向けになり片方の手を潜望鏡として垂直につきあげました。この様に床の上に仰向けになつて、兩

足で床を蹴りながら、背中まで進んでゆきます。今度は、音楽が大きくなればそのまゝ進み、小さな音になつた時には、舉げた手を下して静止することいたします。

島とり

子供がのれる箱を五つ六つ用意し、床の上に並べて海の中の島をつくり、床に落ちない様にこの上をうまく渡つてゆく運動。

箱は高低があつてもよろしうございます。

適當な間隔を置いて一列に並べたり、間隔に長短をつくつて、あちこちばら／＼に並べたりいたします。

貝拾ひ

(音楽は海や波の唱歌の曲を任意に選び、途中で隨意に大きな波の音を出して下さい。)

波と子供の二組に分れ、波の組は横に一列に並んで連手をし、子供の組は、みんな散り／＼になります。

音楽がはじまりますと、波の組は、連手を前後に振り、散つてゐた子供達は、波の側まで靜かに歩いて行つてしやがみます、大きな足音をたてると、貝が逃げてしまひますから、出来るだけ靜かに、近寄つてくることにいたします。それから、めい／＼砂を掴つたり、貝を拾つたりする動作をし、音楽が突然大きな波の音に代ると、子供達は一齊に逃げ出し、波になつてゐた人は、手を離して子供達を追ひかけ安全地域(はじめに定めておく)に、は入らない中に擱へるのです。安全地域に既に入つた子供は擱へることは出来ません。(筆者は東京女高師附屬幼稚園保母)